

Weekly Market Report

Jun 17, 2019

FX, JPY Interest Rate, Topics

1. 為替相場概況

FOMCで利下げ織り込み加速となるか。週後半は通商問題の進展に注目。

USD/JPY (1週間の値動き)



コメント

先週のドル円はFOMCを控え様子見姿勢が強く、108円台前半では押し目買いで底堅い値動きが続いた。週初は対メキシコ関税見送りでリスク選好地合いとなるも、トランプ大統領が米政策金利は高すぎるとFRBの金融政策を批判したことで米金利が低下。また、対中通商協議については協定が良い内容でなければ合意しないと警告し、香港デモによる政治不安も円買い材料となった。米CPIは市場予想を下回りインフレ鈍化を印象づける内容となりドル売りとなったが、対欧州通貨でのドル買いが対円にも波及し、ドル円は108円半ばでの揉み合いが続いた。週後半は豪雇用統計を受けて豪ドル円が急落し、またホルムズ海峡での石油タンカー攻撃を受けて円買いが優勢の状況下、中国鉱工業生産の悪化でドル円は108.16円まで下げたが、その後の米小売売上高は強い内容となり108.59円まで反発した。今週はFOMCで7月利下げの可能性が示唆されるか否かに注目が集まる。また地政学リスクや対中通商協議の長期化が懸念される中、ドル円の上値は重くG20までは動きづらい環境となるだろう。
(市場商品部/岩立)

今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
6/18(火)	(米)住宅着工件数	123.5万件
6/19(水)	(米)FOMC	-
6/20(木)	(日)日銀金融政策決定会合	-
6/20(木)	(英)英中銀金融政策委員会	-
6/21(金)	(米)中古住宅販売件数	525万件

USD/JPY (4年間)



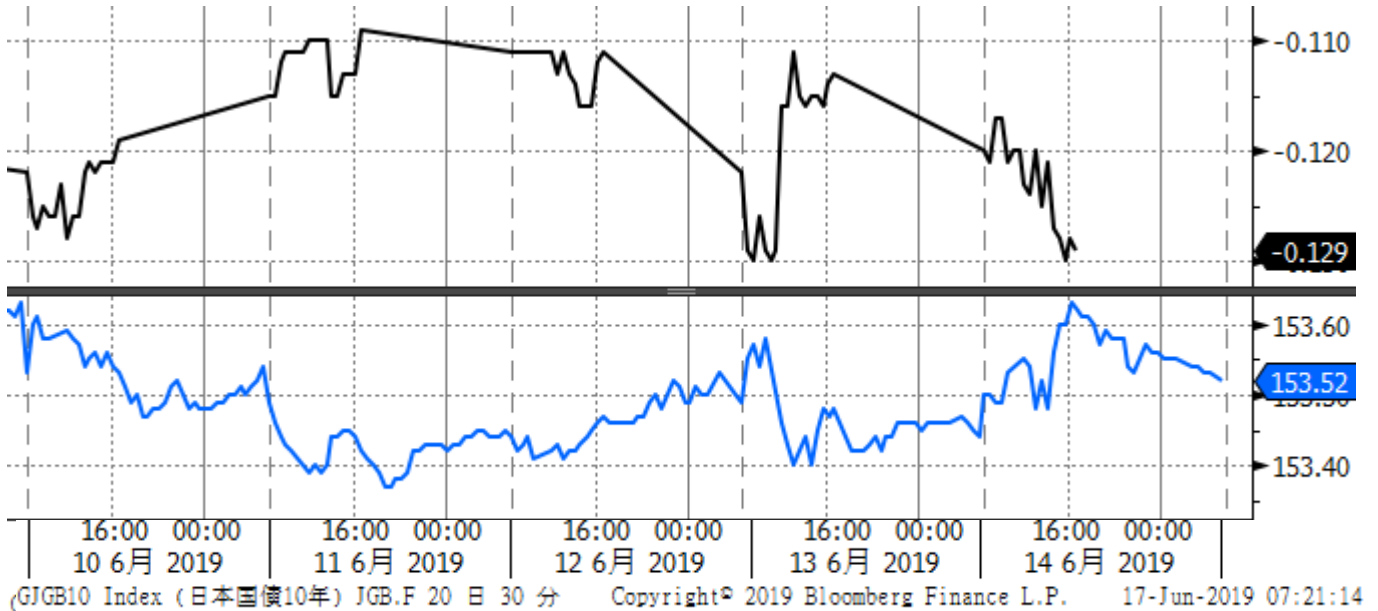
今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
今村仁	107.00 - 110.00	FOMCでの利下げ見送り予想も、根強い利下げ期待がドル円相場の上値を圧迫。方向感醸成は実需の動き待ち。
川合隆行	107.00 - 109.50	世界経済の停滞観測がドル円の上値の重しに。週央のFOMCでハト派な見解が示された場合、更なる円高進行に注意。

2. 円金利相場概況

今週は日米の中央銀行イベントに注目

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



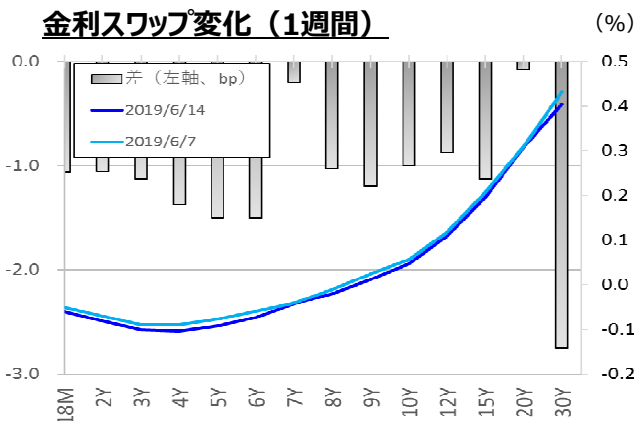
(出所) Bloomberg

コメント

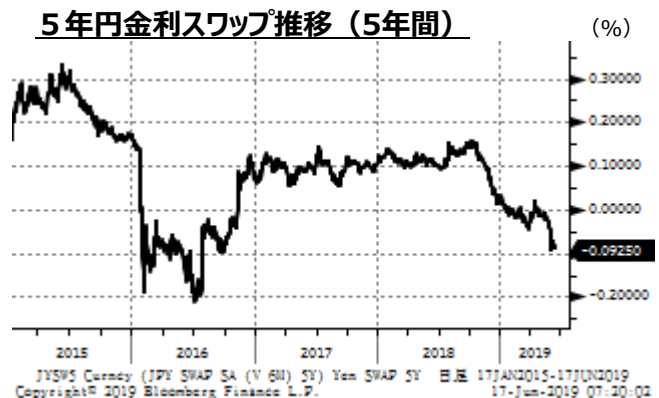
先週の円金利市場は超長期ゾーンが大きく上下する展開となった。トランプ大統領のメキシコ関税先送り発言から始まったマーケットで欧米金利はギャップダウンして始まったが円債の調整は限定的で30年債、40年債の強さが際立ち、30年債は週初は0.38%辺りで始まるも、木曜の入札前には一時0.305%まで低下した。入札結果が非常に低調だったことを受けて大きく売られ、金曜も調整地合いが続き0.365%で引けている。過熱的な買いは一旦収まるかもしれないが押し目買いが入るレベル感を探ってきたい。今週はFOMC、BOJと中銀イベントが続く。どちらも現状維持を想定しているが、FOMCにおいては今後の利下げ時期及び利下げ幅を示唆するコメントがあるか注目したい。

(市場商品部/岡本)

金利スワップ変化（1週間）



5年円金利スワップ推移（5年間）



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
高野一步	▲0.14% - ▲0.10%	17,18日のFOMCに注目。マーケットは金融緩和の催促相場となっており、結果に左右される展開（失望売り等）となりそう。
伊豆浦有里恵	▲0.15% - ▲0.10%	中東地政学リスク、進展なき米中関係等先行き不透明な中、一段の金利低下余地あるか要人発言に注目が集まる週。

3. 今週のトピックス

ポンド相場アップデート

英・保守党党首選の結果に関わらず、EU離脱交渉は視界不良の状態が継続か。ポンド相場は当面軟調に推移する展開が続きそう。

BOEは5月の金融政策委員会で現状維持を決定

イングランド中央銀行(BOE)の金融政策委員会(MPC)は、5月2日に行われた会合にて政策金利を据え置くことを全会一致で決定した。また、同会合で発表された四半期に一度のインフレレポートでは、物価見通しについては2019年、2020年が下方修正された一方、成長見通しは上方修正されている【図1】。今年に入ってから英国経済の成長上振れと、レポート作成時点での海外経済の堅調さ、緩和的金融環境が上方修正の要因と考えられる。BOEはスムーズなEU離脱を前提に、今後3年で2回程程度の利上げを想定していると考えられるが、離脱交渉の行方が一層の混迷を深めていることや、世界的な景気減速懸念等により、想定通りの利上げに進むには相応のハードルがありそうだ。

EU離脱交渉の行方次第では、更なるポンド安も

ポンド相場について、今年3月から4月にかけてはEU離脱期限の延長決定もあり1ポンド=1.3ドル台で推移していたが、5月以降は離脱交渉を巡る不透明感の再燃や、米中貿易摩擦を巡りリスクオフムードの中、右肩下りのダウントレンドに入り、足元では1ポンド=1.25ドル付近で推移している【図2】。ポンドのIMMポジションを見ると現在は約4.5万枚程度の売り越しとなっているが、直近3年の売り越しピーク時と比較すると半分にも満たない水準であり【図3】、一層の売り余地がありそうだ。

市場の注目は英・保守党の党首選へ

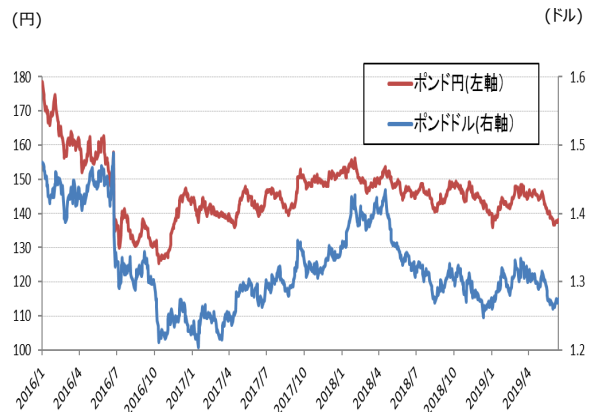
4月10日のEU臨時首脳会議で、英国のEU離脱期限は、10月31日まで再延長されることが決定したが、その後も英国のメイ首相は議会で離脱協定を通すことが出来ず、6月7日には保守党党首を辞任した。今月からメイ首相の後任を決める党首選がスタートしており、7月22日の週には新党首が選出される予定となっている。候補者は合意なき離脱も辞さない「離脱強硬派」、EUとの関係を重視した離脱を目指す「穏健離脱派」に分かれているが、離脱強硬派筆頭のジョンソン前外相の当選が有力視される等、合意なき離脱は現実味を帯びてきている。離脱強硬派、穏健離脱派のいずれの候補者が選出された場合も今年10月末の期限までに離脱方針を固めるには相当に厳しい道のりが待ち構えており、ポンド相場は当面軟調に推移する展開が予想される。
(市場営業部/坂本)

【図1】BOEによるGDP、CPI見通し

		2月会合	5月会合
GDP	2019年	+1.2%	+1.5%
	2020年	+1.5%	+1.6%
	2021年	+1.9%	+2.1%
CPI	2019年	+2.0%	+1.6%
	2020年	+2.1%	+2.0%
	2021年	+2.1%	+2.1%

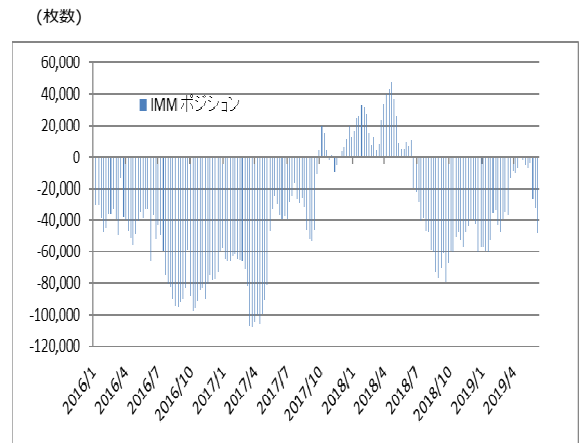
(出所 BOEのデータを基に作成)

【図2】ポンド相場(対ドル、対円)



(出所 Bloomberg)

【図3】ポンドIMMポジション



(出所 Bloomberg)

ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会